

# 団地にアトリエと猫。



日本3大ニュータウンの一つである”高蔵寺ニュータウン”は7つの地区で構成され、中でも最も古くから存在する藤山台団地の一室のリノベーションである。施主はご夫婦と愛猫1匹の3者。

奥さんが生まれ育った実家であり思い出のある場所であったが、ご両親が亡くなり相続後しばらく空き家状態であった。

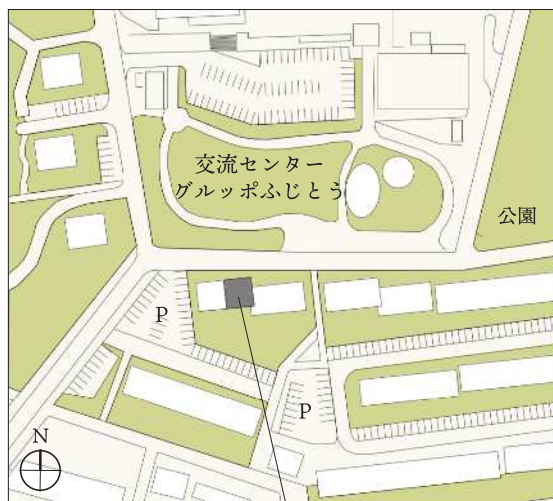
団地には珍しく規約でペット飼育可を認めている団地であり、日本画家である奥さん、本屋さん勤めでDIY工具持ちの旦那さん、そのお二人に愛される猫、三者の新たな共同生活の場所として古き良き団地に戻り、築50年を超える一室をリノベーションする事となった。

高齢化と空き家が問題化しつつあるニュータウンに於いて、

”ニュータウンで生まれ育った人間が、一度離れた後に再び戻ってきて住処とする。”

という行動はこのエリアの今後に大きな可能性を示唆する。

築年数、設備の古さといったデメリットや、購入しやすい売買価格といった印象を超えた本来の意味での「住む魅力」を創り出せる事、本プロジェクトがこの団地の魅力・可能性を引き出し提示することでこのニュータウンがこれから目指すべき価値の方向性に、一つの回答をもたらす事ができるかもしれない。



建物概要  
所在地：愛知県春日井市高蔵寺ニュータウン藤山台団地  
主要用途：専用住宅 家族構成：親夫婦+猫1匹  
階数：4階建ての4階 延床面積：66.45㎡

## とりくみ

この物件は高蔵寺ニュータウンを再生させるべく集まった地元建築家グループによるプロジェクトの一貫であり、単なるリノベーション事例としてではなく、様々な関係性構築を含めて、これからニュータウンに住む『人』のモデルケースとしてハードとソフトの両面からバックアップしている。

プロジェクト初期より地元交流センター、まちづくり会社や市のニュータウン担当部署との情報共有、ペットや住まい手の生い立ちやこれからの生活スタイルに着目した記事の地元紙への掲載（計画中）、地元工務店との関係、地域イベント等の共有などプロジェクト全体が住まい手を中心とした緩やかなコミュニティとなりつつある事も本プロジェクトの大きな特徴の一つである。



ダイニングから北側にある交流センターを望む



アトリエ



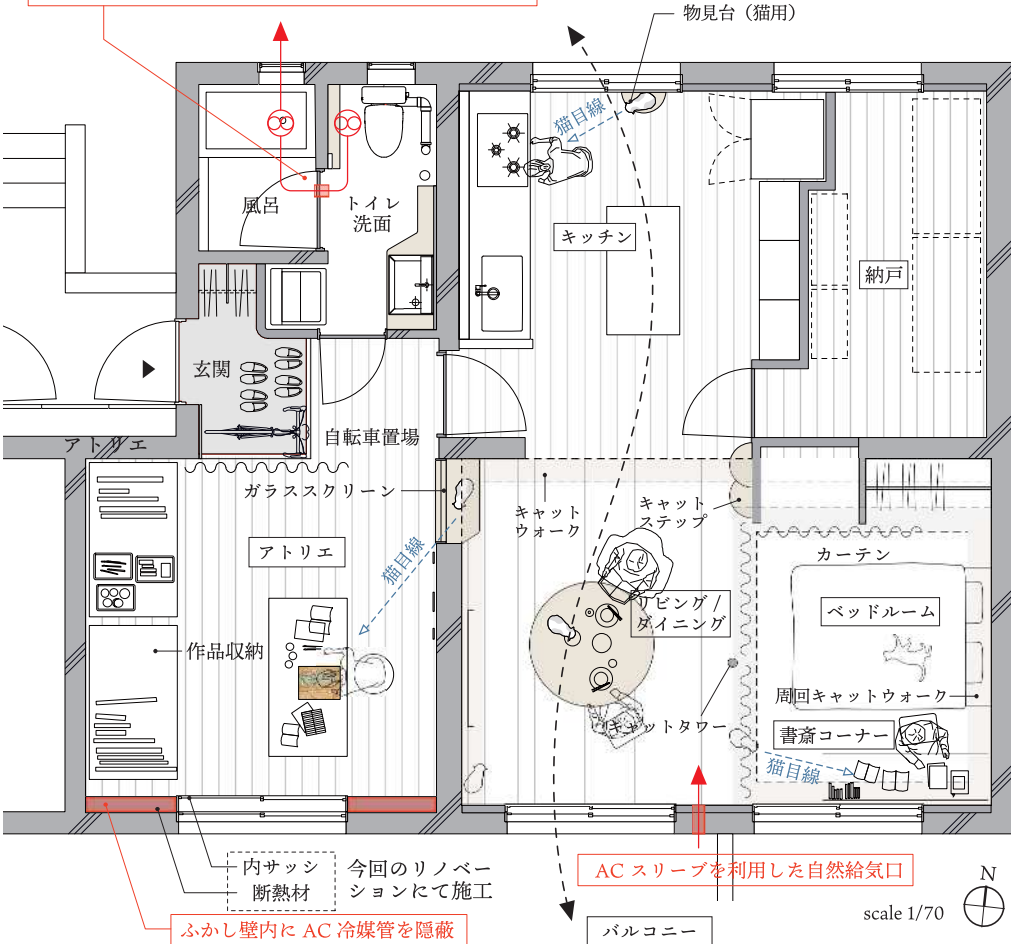
可動ステップ

# 空間

住まい手の充実した生活スタイルとその存在が地域との新たな関係性を築き、これからの団地再生の象徴となっていく事を目指した。そのため施主ひとりひとり（内、猫1匹）にとってこの先長い時間を生活するためのプライベートな居場所、また同時に新たな家族形態（2人+1匹）のため適度な距離感を持った共同空間と、築50年以上経過している建物の物理的・設備的側面、不具合をクリアして、団地の新たな可能性を伝えられる空間をめざした。



ドア上部（非耐力壁部）にてコア抜きし2室換気を設置



広い隣棟間隔や50年以上経ち十分に成長した樹木が作り出す見晴らしの良さもこのニュータウンの魅力の一つである。南側には団地を見下ろしつつ名古屋守山区方面の緑を望むことができる景色、北側の窓からは地域交流センターで遊ぶ子供達の声が聞こえる。ワンルームにした事により南北に繋がり、景色や音、風といった外部環境が気持ちよく室内に流れ込み、より地域との距離を身近に感じるすまいとなる。



キッチン：壁面にフレキシブルな収納と手元灯を設置。



ガラススクリーン



間仕切りを撤去しトイレ・洗面一室に



既設タイルに塗装した風呂



before ↑  
after ↓（ベッドルームからの眺め）



キャットウォーク、可動ステップ、そしてキャットタワー  
猫のため。張りめぐらせたキャットウォーク（延長16M）、棚柱を用いたステップ（加齢により高さ変更可）、天井高あるキャットタワーは施主、工務店、設計者で麻紐を巻いて製作。



麻紐巻ワークショップ



ガラススクリーンと猫の手スリット  
アトリエとリビングは既設のRC耐力壁で仕切られているが、唯一耐力壁が途切れる箇所を利用して本棚を兼ねたガラススクリーンとしている。愛猫はアトリエに入る事を許されていないが、  
①ガラス越しに眺める事、  
②スリットから手を出す、  
事のみ許されている。

猫の手スリット



キッチン/ダイニング



キャットウォーク

キャットタワー

## 有孔ボード

アトリエ、ダイニングの壁仕上げに有孔ボードを採用。制作した絵画、本、DIY工具等を自由に配置し生活空間を自由にアレンジする。



## 機械換気化（2室換気）

新築当時は機械換気が想定されていなかったため風呂、トイレともに排気用スリーブは無い。そこで風呂既設サッシの窓ガラスを一部パネルとして機械換気用のフードを設置。さらに浴室ドア上部（非耐力壁）にコア抜きを行いトイレからの排気を繋ぎ機械による2室換気を可能にしている。

既設サッシから2室まとめて排気



トイレ排気

## 災害用蓄電池の日常利用

契約電力は30Aであり現在の生活様態にはとても物足りず、また建物全体の受給電力の関係上、容量アップも不可能であった。そこで市販の災害用蓄電池を用いて、主にキッチン周りの家電用電力を賄う事でカバーしている。  
容量：2048Wh  
出力：2000W  
通常時は炊飯器や電気ポットの電力として利用。災害時への備えともなる。



## エアコンの冷媒管ルート（アトリエ）

エアコン冷媒管用スリーブが無い団地では、換気用小窓を利用して冷媒管を通す方法が苦肉の策としてよくみられる。今回は内窓を設置する際に壁をふかし、冷媒管用スペースを設ける事により室内側に冷媒管が出ない様になっている。



壁ふかし（既設サッシと内窓の間）

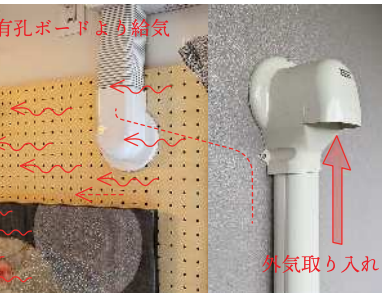
先行配管

既設サッシ

新規内窓

## 自然給気口（リビング）

内窓で気密性が上がるため新たに給気口が必要となる。1箇所のみあった冷媒用スリーブ箇所ので換気用パーツにて外気取り入れ、室内側は有孔ボードの穴より自然給気口としている。



有孔ボードより給気

外気取り入れ

## 内窓と断熱材

外壁周りには新しく断熱材、共有部分である既設サッシはそのままに、すべての箇所に内窓を設置して全体的な断熱性能を上げている。

断熱材（ポリエステル系）



北面は断熱補強追加（スタイロ系）

## カーテンによる仕切り

壁による間仕切りは最小限にとどめ、空間を繋げつつ柔らかく仕切るためにカーテンを多用している。キャットウォークは一部カーテンレール下地として機能している。

